

主要施策

令和8年度の主な施策と予算額

重点政策

教育の充実

● 学校再編事業

1億8,039万1千円

行田市義務教育学校設置に向けた再編計画に基づき、忍・行田・埼玉・太田中学校区で構成するBブロック新校の基本設計の作成に取り組みます。

拡充

● 英語のできる行田っ子育成事業

7,321万7千円

全小・中学校へ外国語指導助手(ALT)の配置や、幼稚園への外国語指導員の派遣に加え、AIを活用した英語教育を全小・中学校に拡充し、実施します。

新規

● 特色ある教育活動推進プロジェクト

565万5千円

学校再編計画において、基本的な考え方の一つとして掲げる「行田ならではの特色ある教育」を再編に先駆けて推進するため、STEAM教育や情報活用能力を育む教育を実施します。

※STEAM(スティーム)教育: Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・リベラルアーツ)、Mathematics(算数・数学)の頭文字を組み合わせた教育概念。教科横断的な探求の学びを繰り返すことで、新しい価値を創造できる力を育成する教育のこと。



英語のできる行田っ子育成事業



● 朝のこどもの居場所づくり事業

195万円

子どもの小学校入学に際して、保育所の預かり開始時間と小学校の登校時間の差により保護者が仕事などを変更せざるを得ない状況になる「朝の小1の壁」を解消するため、平日の朝に小学校などで子どもを預かります。

新規

● 5歳児健康診査事業

1,538万4千円

専門的知識をもった医師、保健師、保育士、心理士などの多職種による5歳児健康診査を実施することにより、子どもの持つ特性を早期に発見し、必要な支援につなげます。また、必要な子どもには心理士による相談などを実施します。



子ども等多世代の居場所づくり支援事業

拡充

● 子ども等多世代の居場所づくり支援事業

652万3千円

家や学校以外で、子どもたちが自分の居場所として感じ、多世代と交流できる第3の居場所づくりの支援を一部拡充して実施します。

重点政策

子育て支援の強化

令和8年度

一般会計予算をお知らせします



行田市長 行田 邦子



人口減少の抑制・活力の創出

- 「新しい行田の好循環」を次のフェーズに進めるための予算
- 3つの重点政策を「学校再編まちづくり」として一体的かつ強力で推進
- 国・県支出金、有利な地方債などを積極的に活用し、財源を確保

令和8年度は、一般会計で総額324億4千万円(前年度比5.2%増)の予算を措置しました。新しい行田へと歩みを進めるに当たり、その中心に位置付けられるのが「学校再編事業」と「中心市街地公共施設再編事業」を一体的に行う「学校再編まちづくり」です。令和8年度は、この「学校再編まちづくり」が本格的に動き出す年になります。

そして、学校再編と併せ、地域の絆や支え合い、多世代交流の維持など、今後の地域コミュニティのあり方を考えていくことも必要になります。そのため、多世代型子どもの居場所づくり事業の拡充をはじめ、さまざまな取り組みで地域での世代間交流も後押ししていきます。

市長就任以来、新しい行田への種まきに取り組んできました。一部芽が出始めたものもありますが、より多くの市民の皆様へ成果を実感していただくには、さらなる年月が必要となります。今年度は、これまで行ってきた未来への投資から、5年後、10年後、15年後の行田の具体的な姿を可視化し、それを皆様と共に共有できる年にしてまいります。

一般会計 324億4,000万円(前年度比+5.2%)